

『2010年』（にせんじゅうねん、原題: 2010: The Year We Make Contact）は、1984年制作のアメリカ映画。スタンリー・キューブリックの『2001年宇宙の旅』の続編にあたる。原作はアーサー・C・クラークの『2010年宇宙の旅』。 上映時間 116分

ストーリー

2001年のディスカバリー号による木星探査は失敗に終わった。HAL 9000は故障し、4人の船員を殺害。生き残った船長デビッド・ボーマンは木星の衛星軌道上で巨大なモノリスに接触するが、暗号めいたメッセージを残して失踪する。

「凄い!降るような星だ」 "My God, it's full of stars!"

9年後、ボーマンの上司であり、月のティコクレーターで発見されたモノリス（TMA-1）の調査を行ったアメリカ合衆国宇宙評議会のヘイウッド・フロイド博士は失敗の責任を負って議会を去り、ハワイ大学の学長となっていた。一方、アメリカとソ連の外交的緊張が高まる中、ソ連の宇宙船「アレクセイ・レオーノフ」による HAL 9000の故障の原因を突き止めるための米ソの合同調査の準備が整った。フロイド博士は HAL 9000の開発者 R. チャンドラ博士、ディスカバリー号の設計者ウォルター・カーナウ博士等と共にレオーノフ号で木星に向かう。

エウロパに到着したレオーノフ号は無人探査機により地表の探査を行い、生命の兆候であるクロロフィルを発見したが、謎の電磁波放射によって妨害される。フロイド博士はこの電磁波を生命体による警告ではないかと疑う。レオーノフ号は木星の上層大気を利用したエアロキャプチャーの後、イオの上空に滞空する無傷のディスカバリー号を発見。チャンドラ博士とカーナウ博士が乗り込み、船と HAL 9000 を再起動させる。更にディスカバリー号の近くには9年前にボーマンが接触した巨大なモノリスが浮遊していた。フロイド博士の反対を押し切ってソ連側は作業ポッドで再び人的接触を試みるが、突如として放射された電磁波によって乗り込んでいたブライロフスキー共々消滅させられてしまう。電磁波の正体はモノリスとの接触で実体を持たないエネルギー生命体となったボーマンであり、地球まで到達したボーマンは人間だった時の大切な人々を訪ねる。

故障の原因について、最初の指令が出された時には科学者チームは秘密を知らされていた。HALには秘密のはずだったが、2001年1月30日付ホワイトハウスのNSCの秘密メモ342号でモノリスのことを知らされており、チームが冬眠中に矛盾する二つのことで板ばさみ、“メビウスの帯”になっていた。役人たちが HAL にウソを言わせるようにしたのが原因で、統合失調症状態に陥っていたのだ。

直後に緊張状態にあったアメリカとソ連が遂に実質的な戦争状態に突入。この事態を受けて、アメリカ側の乗組員はディスカバリー号に乗り移る事を余儀なくされる。困惑するフロイド博士の前にボーマンが実体となって現れ、「2日以内に木星から立ち去れ」と警告する。フロイド博士は理由を問うがボーマンは「素晴らしいことが起こる」とだけ告げて消える。フロイド博士は再びレオーノフ号に移り、他の乗組員を説得するのに苦心するが、その途中で浮遊していたモノリスが突然姿を消し、代わりに木星に巨大な黒点が出現、着々と巨大化し続ける黒点を分析すると、その正体は無数のモノリスであった。異常に気づいた乗組員達はディスカバリー号をブースターとして使用し、予定より早く木星圏を脱出する計画を立てる。しかし、それはディスカバリー号…つまり、HAL 9000にとって「自身を遺棄せよ」という事であった。この命令で、HAL 9000が再びストレスにより故障するのではないかと乗組員達は恐れるが、チャンドラ博士の全てを打ち明けた説得で HAL 9000は命令に従う。HAL 9000は事態の真実を語ってくれたチャンドラ博士に感謝の意を示す。

計画が成功し、レオーノフ号が木星から遠ざかる中、取り残された HAL 9000 はボーマンと再会。ボーマンは HAL 9000 に地球へメッセージを送るように促す。

これらの世界は全てあなた方のもの  
ただしエウロパは除く  
エウロパへの着陸を試みてはならない  
全ての世界を皆で利用するのだ  
平和のうちに利用するのだ

やがて、無数のモノリスによって質量が増大した木星は恒星「ルシファー」として輝き始める。そのエネルギーによってディスカバリー号は破壊されてしまうが、HAL 9000 はモノリスによって導かれ、ボーマンと共にその一部となった。新たな恒星「ルシファー」の奇跡的な出現とメッセージによって、米ソの対立は平和的な解決へ導かれる。夜の無くなった地球に平穏の時が訪れた。

それから数千年後、エウロパには生命が栄え始め、湿地帯が出現しジャングルが生い茂っていた。その中に一体のモノリスが、やがて現れるであろう知的生命体との接触を待つために佇んでいるのであった。

## 製作

1982年に原作者のクラークが前作『2001年宇宙の旅』の監督スタンリー・キューブリックに電話で「『2010年宇宙の旅』をあなたの仕事で映画化することを私は止めないし気にしない」と冗談めかして語った。その直後にMGMが『2010年』の映画化権を獲得したが、キューブリックはプロジェクトに関心を持たなかった。しかし、興味を示したピーター・ハイアムズはクラークとキューブリックの両方に連絡をとった。キューブリックはハイアムズに「恐れてはいけない。自分の映画を撮れ」と語った。1983年にハイアムズはクラークと連絡を取りながら脚本を完成させた。

## キャスト

ヘイウッド・フロイド博士 ロイ・シャイダー 羽佐間道夫 家弓家正  
ウォルター・カーナウ博士 ジョン・リスゴー 千田光男 秋元羊介  
ターニャ・カーバック船長 ヘレン・ミレン 弥永和子 駒塚由衣  
R. チャンドラ博士 ボブ・バラバン 富山敬  
デビッド・ボーマン船長 キア・デュリア 堀勝之祐 納谷六朗  
HAL9000 声 ダグラス・レイン 金内吉男 野田圭一  
ワシリー・オルロフ博士 オレグ・ラドニック 谷口節 野島昭生  
マキシム・ブライロフスキー エリヤ・バスキン 玄田哲章 仲木隆司  
ヴィクター・ミルソン ジェームズ・マクイーチン 坂口芳貞 藤本譲  
キャロライン・フロイド マドリン・スミス=オズボーン 高島雅羅 さとうあい